

イオリンに限らずどの道に於ても、ベビーはコトバを覚えるのと同様、無限の可能性を与えられていることを再確認していただきたいと思います。

卒寿を迎えられた折、この第35回大会がそのお祝いの大会となることを祈念します。



生徒を代表して

豊田耕児

先生、お誕生日おめでとうございます。

何歳の、とは申しません。先生がお好きではないからです。イスラエルの民の父アブラハムは、175歳まで生きて、イスラエルの土台を築かれたと聞いています。先生も現在のお年に加えて、先、100年ほどを考えて頂けると丁度いいかと思ひます。

東も西も、今や、北も南も、SUZUKI METHODを知らないところはなくなりました。これからは、先生のお年と共に内容が充実して行くことでありましょう。それは又、子供達と我々の肩にもかかっていることなのかもしれませぬ。反省、研究を怠らず、先生のご指導の許で、「世界の^{こども}子供達の幸せの為に」努力して行きたいと思ひます。

先生、今後共どうぞよろしくお願ひ致します。

(ベルリン国立音楽大学教授)



20世紀の活きた遺産

中嶋嶺雄

現在、20世紀とは何であったのかが様々な角度から問われつつあります。今世紀も70年代あたりまでは、戦争と革命の世紀だったと言ってよいでしょう。しかし、80年代以降になってみると、戦争と革命の世紀の最大の受益者であった米ソ兩超大国にも翳りが見えはじめ、日本をはじめとする東アジア文化圏の経済主導型発展のダイナミズムが国際的にも大きな注目を集めています。こうして今日の世界においては、はいよいよ、多くの人びとの豊かな精神的成熟、つまり広範な国民的レベルでの文化の豊かさが社会進歩の道標になろうとしているのです。

このような時代であればある程、鈴木鎮一先生の存在が大きな意味をもち、いまや国境や民族の壁を越えて、ますます多くの人びとに才能教育の成果が共有されつつあると言ってよいでしょう。

その鈴木先生は、現在、卒寿を迎えられてなますますお元気であることを、才能教育の前身である松本音楽院にかつて学んだ者として、心からお慶び致します。

私は昨春、松本の青年会議所の諸君が主催した才能教育会館での講演会に招かれた機会に、鈴木先生のレッスンを本当に久しぶりに拝見しました。私自身も40年ぶりに先生の前で独奏するハメになったのですが、あの松本の地でチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲第1楽章を斉奏している国際色豊かなお弟子さんたちにボウイングの指導(逆さ弓と下げ肘の弾き方)を懸命にされているお姿に接し、これこそ今日の日本が世界に誇り得る活きた文化遺産なのだと感銘深く再認識したのでした。

(東京外国語大学教授・国際関係論/現代中国学)

'89

SUZUKI

METHOD

NATIONAL

CONCERT



第35回才能教育全国大会コンサート

スズキ・メソッドによる

3,000人の児童の大合奏

1989年3月27日(月)2:00 p.m.

日本武道館(東京・九段)



主催 ■ 観才能教育研究会

後援 ■ 東京都教育委員会・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞社
日本テレビ・TBS・フジテレビジョン・10テレビ朝日